

# 鬼北町施政方針

町長が示した平成22年度の取り組み

3月8日に開催された鬼北町議会3月定例会において甲岡町長が平成22年度施政方針を表明しました。概要をお知らせします。

## ◎施政の取り組み

これからの地方は、間違いなく、生き残りを賭けた苦難の時代を迎えます。鬼北町においても、行財政の疲弊に加えて、地域経済の閉塞感、停滞感が追い討ちをかけるという厳しい現状に直面しています。このまま変革を求めず手をこまねいては、現状を打破できないばかりか、解決策は生まれませんし、ましてや進歩・発展は望めません。

このような混迷の時代に「主権は町民にある」という基本理念を掲げ、対話と協調に意を注ぎ、まずは、行財政の健全化と活性化に努めることが最優先であると考えています。今は、「何でもできる」という時代ではありません。施策の取捨選択を誤ると衰退の一途をたどるといふ厳しい状況にあり

ます。そうならないための「町」を構築していくためには、「今何をなすべきか」「しない勇気は何か」「真に町民が求めているものは何か」あるいは「次世代に繋げていくものは何か」など、ムダ、ムリ、ムラを省きながら、行政の諸々の課題を一つひとつ克服していく勇気が必要です。

行政は、町民に夢と希望を抱いていただけるような先見性と具体性に満ちた明確な「町の将来像」を示していくかなければなりません。それが我々に課せられた使命であると自認しているところです。「厳しい時代だからこそ真価が問われるのだ」という緊張感と危機感を常に堅持しながら、時流に乗り遅れることのないよう個性的で魅力ある町づくりを推進することが重要であると思っております。そのためには、国や県、

場合によっては世界が発信するグローバルな情報をすばやく察知して、即応力ある分析・企画・調整を行い、誤りのない判断ができる行政システムを構築する必要があると考えています。

他を追い越し生き残るためには、新機軸への常なる工夫と創造へのたゆまぬ挑戦が不可欠となります。まず、常に先取の気概を持って事に当たるといふ姿勢が重要であると認識しています。

また、町民の誰もが「鬼北町を愛している」「鬼北町は安全・安心・安息の地だ」と言っていただけ魅力的な町づくりを推し進めることが急務であると考えることができます。「働く喜びが実感できる町」「福祉・保健・医療の充実した町」「人が集まる賑わいのある町」等、取り組むべき課題は、多種多様で山積しております。



これらを一つ一つ実現していくためには、官と民が一体となった「行政と町民との協働による町づくり」を更に発展させる必要があると考えています。

そのために行政としては、町民の期待を裏切ることなく、不断の努力を惜しまず精励することが、職員にとっては肝要となります。一人ひとりが「自ら町づくりに参加する」という変わらぬ情熱と積極的な実践力を発揮していただくことが不可欠であると考えています。

町づくりはいかに個性と独自性を具現化するかにあると思っております。オンリーワン主義で独自性を発揮することにより、県内はもとより、国内外で高く評価され、認知していただける町になることを目指しております。また、

自治体として、その存在感と価値観を高めることになると強く主張するものです。

## ◎施策の概要

### 行財政改革

#### 行財政改革の推進

町民との対話と協調を進めながら、簡素で機能的な組織機構を構築し、行財政改革の計画的な取り組みに邁進するとともに、諸々の施策や事務事業の選択を行政自らの責任で行うことが重要であると考えています。

また、中長期を見据えた具体的な改革内容を示した「新行政改革大綱」を策定し、一層の行財政改革を推進し、行財政の健全化に努めます。そのためには、「集中改革プラン」の成果を検証し、経常的経費の削減をはじめ、各種補助事業等の見直しを行うとともに、町有財産等の適正な管理と有効活用を図り、また、新たな施設を含め既存の施設等の指定管理者制度の導入の検討、事業の民間委託の促進、行政評価システムの導入による事務事業の見直し等を進めます。公共工事の入札および契約の適正化については、入札および契約の過程並